

## 第1章 「新入生調査」の結果報告

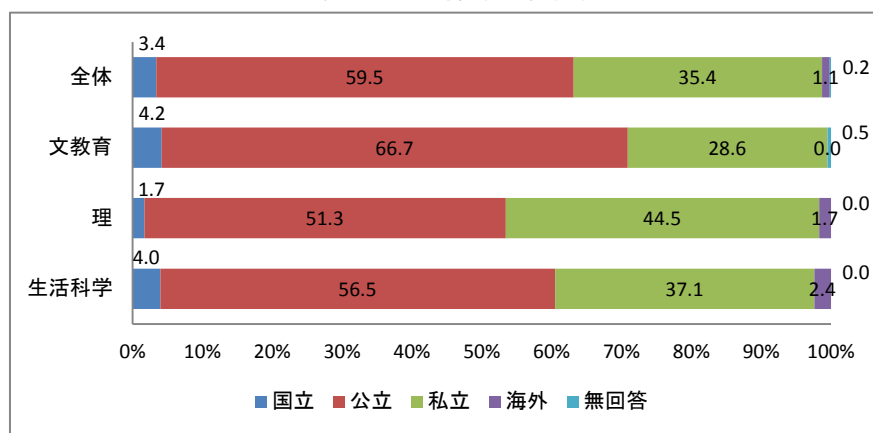
### (1) 出身高校

新入生の出身高校について、①設置者、②種類、③学科から示していく。

#### ①設置者

出身高校の設置者について、「国立」「公立」「私立」に「海外」を加えて示したものが図表 1-1 である。

図表 1-1 出身高校の設置者



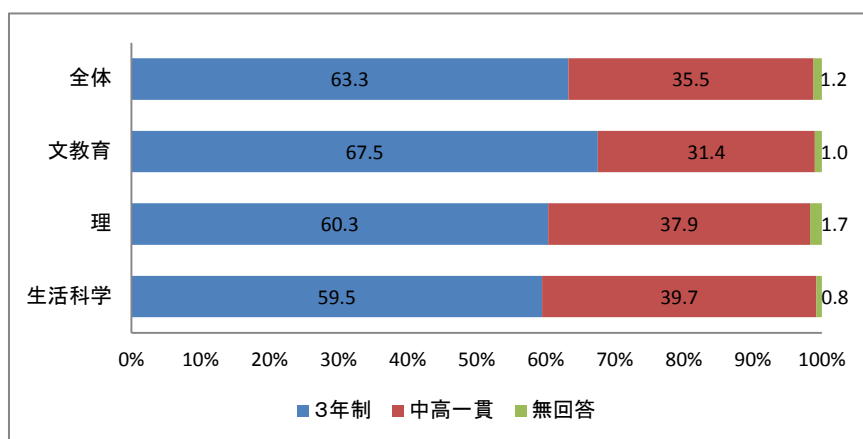
全体で見ると、「公立」59.5%、「私立」35.4%、「国立」3.4%であった。学部別にみると、文教育学部では「公立」の割合が高く、66.7%に及んでいる。

これらの傾向は、平成25年度新入生でもほぼ同様にみられた（お茶の水女子大学2013, P4 参照）。

#### ②種類

出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」別に示したものが図表 1-2 である。

図表 1-2 出身高校の種類

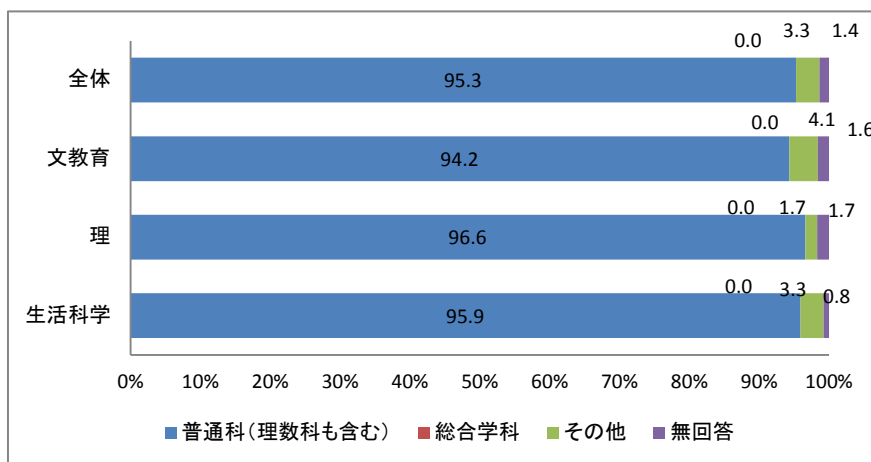


全体でみると、「3年制」63.3%、「中高一貫」35.5%であった。学部別にみると、平成25年度は理学部における「3年制」の割合の低さが55.3%と目立ったが（お茶の水女子大学2013, P4参照）、今年度は文教育学部における「3年制」の割合の高さが目立つ結果となった。

### ③学科

出身高校の学科を「普通科」「総合学科」「その他」別に示したものが図表1-3である。

図表 1-3 出身高校の学科



全体の95.3%が「普通科」であり、学部別にみても大きな差異はみられない。平成25年度新入生でも95.5%と同様の傾向が示されているが（お茶の水女子大学2013, P5参照）、今年度の新入生では、「総合学科」がいずれの学部でもみられなかった。

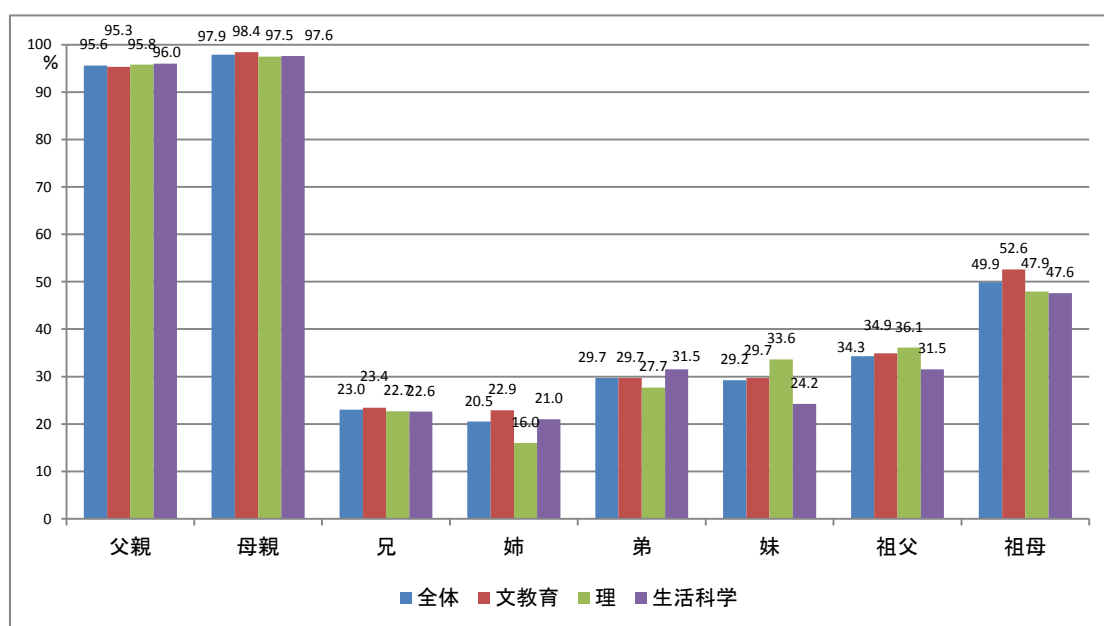
## (2) 家族構成

本節では、新入生の家族構成について、①家族の構成、②兄弟姉妹の構成、③出生順位、④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数、⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数から示していく。

### ①家族の構成

新入生の家族構成について、「父親」「母親」「兄」「姉」「弟」「妹」「祖父」「祖母」などから、あてはまるものを複数回答可として尋ねた結果が図表 2-1 である。

図表 2-1 家族構成



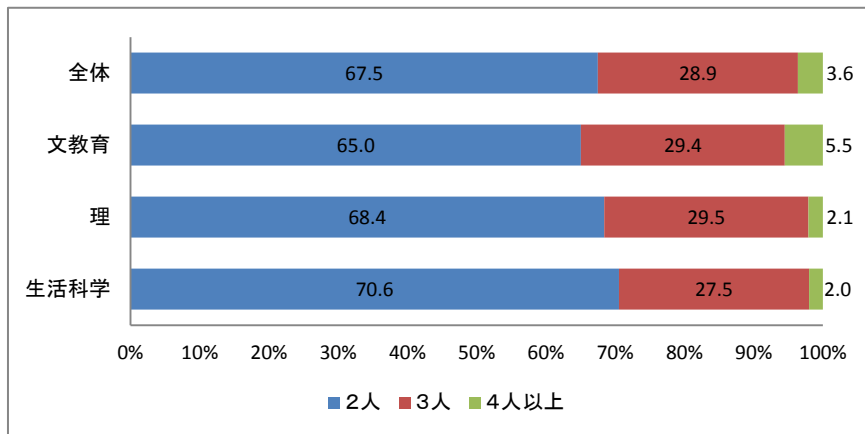
今年度の新入生の家族構成については、全体でみても、学部別でみても、平成 25 年度新入生と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学 2013, P6 参照）。

ただし、兄弟姉妹がいない「一人っ子」は全体の 17.2%であり、平成 25 年度 15.2%（お茶の水女子大学 2013, P6 参照）、平成 24 年度 13.5%（お茶の水女子大学 2012, P7 参照）に比べると、その割合は年々大きくなっている。

## ②兄弟姉妹の構成

「兄」「弟」「姉」「妹」に回答した者に対し、自分を含めた兄弟姉妹の数を尋ねた結果が図表 2-2 である。

図表 2-2 兄弟姉妹の構成



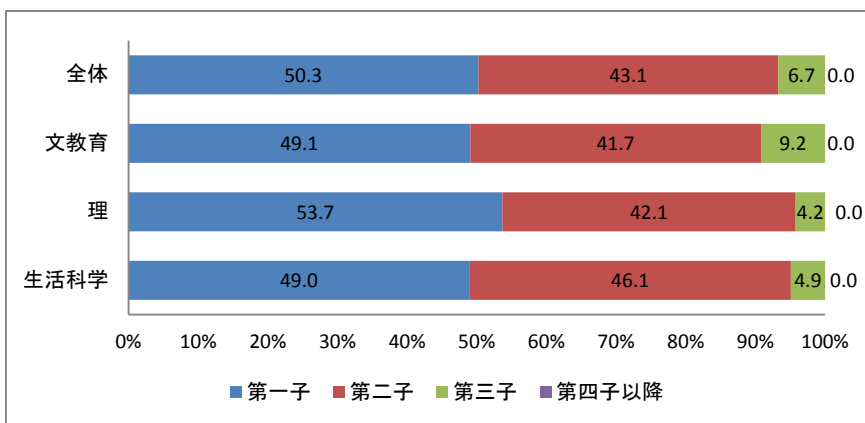
全体で見ると、「2人」が67.5%と最も高く、次いで「3人」が28.9%であり、平成25年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2013, P6-7 参照）。

学部による大きな差異はみられないが、文教育学部と生活科学部では、「2人」が5ポイント程度の開きがみられる。文教育学部では「4人以上」も5.5%おり、他の学部に比べて兄弟姉妹が多い傾向が示されている。

## ③兄弟姉妹がいる中での出生順位

図表 2-3 は、「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者に対して、その構成内での出生順位について尋ねた結果である。

図表 2-3 兄弟姉妹内の出生順位



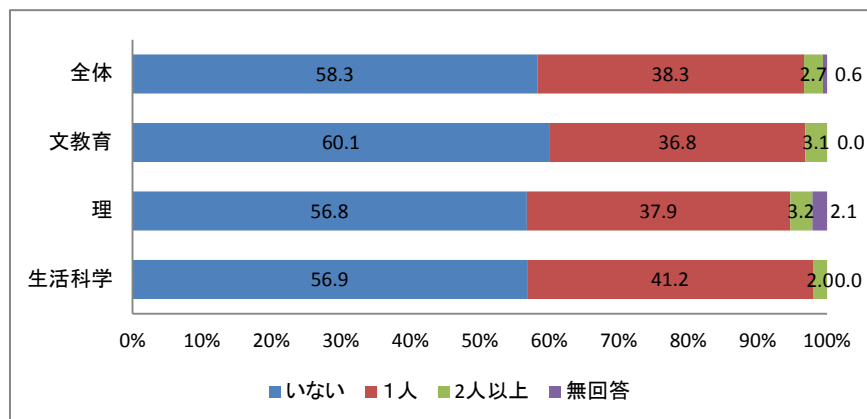
「第一子」は全体の50.3%であり、「一人っ子」が17.2%であることから（P7 参照）、全体の67.5%が第一子である。平成25年度新入生でも第一子は全体の68.0%であり、今年度同様の結果が示されている（お茶の水女子大学2013, P7）。

学部別にみると、文教育学部では「第三子」が9.2%と他の学部より高い。

#### ④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表 2-4 は、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数（自分を除く）を尋ねた結果である。

図表 2-4 高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

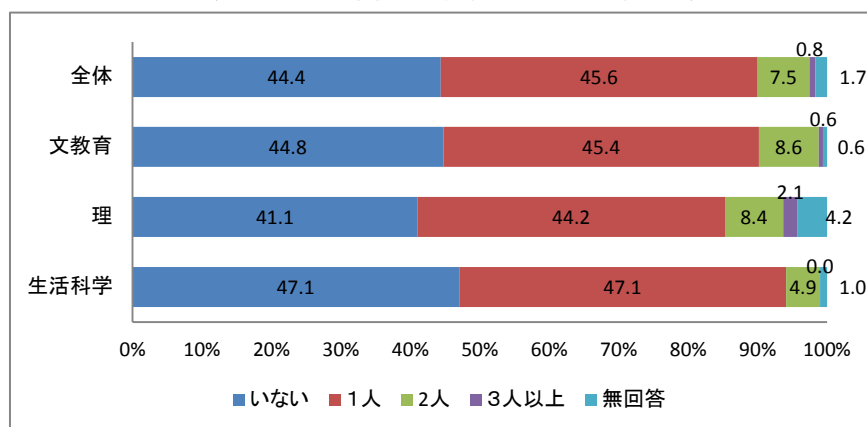


全体の 58.3%が「いない」、38.3%が「1人」、2.7%が「2人」であり、文教育学部で「いない」がやや多いものの、学部による大きな差異はみられない結果となった。平成 25 年度新入生でも、ほぼ同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2013, P7 参照）。

#### ⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表 2-5 は、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数（自分を除く）について尋ねた結果である。

図表 2-5 私立学校（予定含む）の兄弟姉妹の数



全体の 45.6%が「1人」、44.4%が「いない」、7.5%が「2人」であり、学部により大きな差異もみられず、平成 25 年度新入生とほぼ同様の傾向がみられた（お茶の水女子大学 2013, P8 参照）。

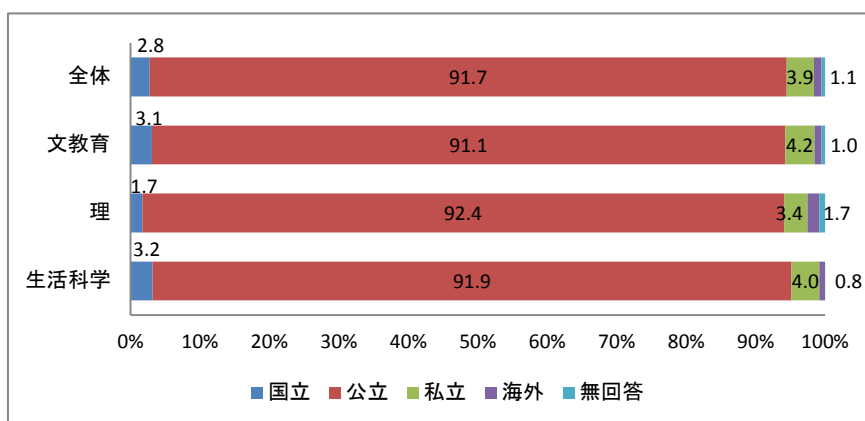
### (3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①出身小学校・中学校の設置者、②これまでの受験経験、③本学の受験を決めた時期、④本学の志望の度合い、⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと、⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動から示していく。

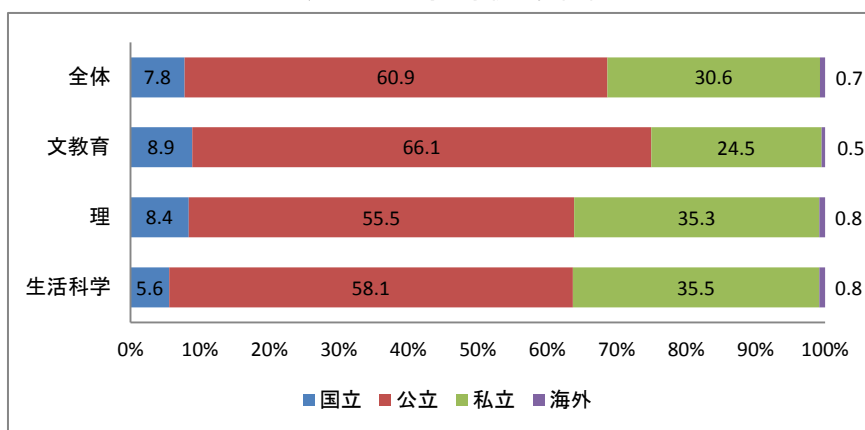
#### ①出身小学校・中学校の設置者

図表 3-1 は出身小学校の設置者について、図表 3-2 は出身中学校の設置者について、それぞれ「国立」「公立」「私立」「海外」別に尋ねた結果である。

図表 3-1 出身小学校の設置者



図表 3-2 出身中学校の設置者



全体で見ると、「公立」が最も高く、「公立」小学校は91.7%、「公立」中学校は60.9%であった。小学校・中学校ともに「私立」「国立」がそれに続いている。

学部別にみると、小学校では大差がみられないが、中学校では文教育学部での「私立」が24.5%であり、他の学部に比べると低い。

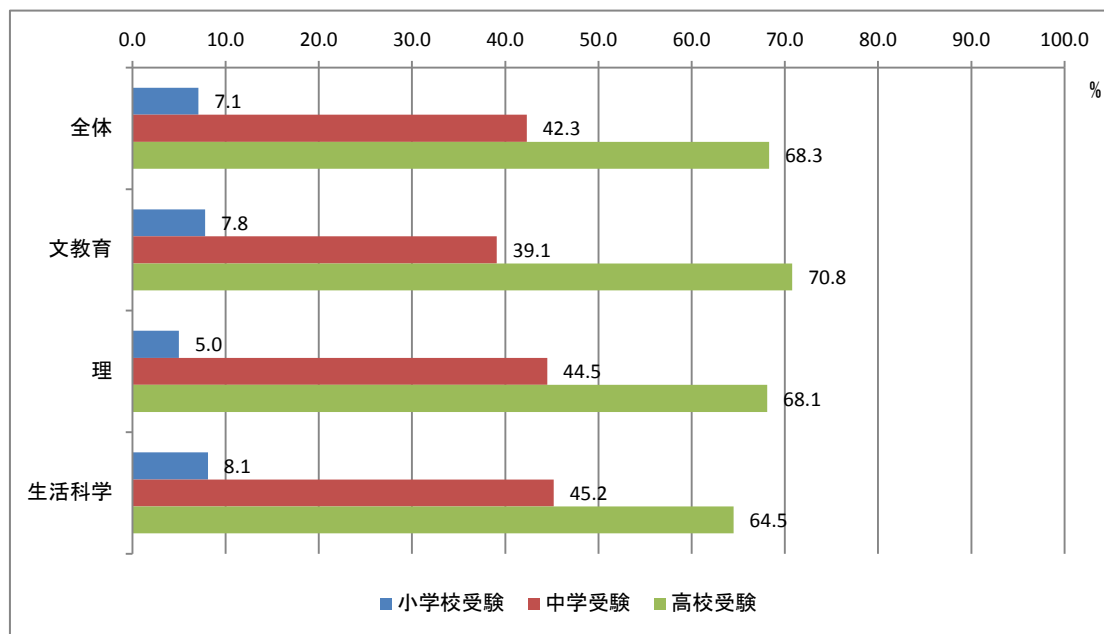
これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学2013, P9参照）。

## ②これまでの受験経験

図表 3-3 は、小学校・中学校・高校のそれぞれに入学するための受験の経験について、複数回答可として尋ねた結果である。

全体の 7.1%が小学校受験を、42.3%が中学受験を経験している。この傾向は、平成 25 年度新入生でも同様にみられる（お茶の水女子大学 2013, P10 参照）。

図表 3-3 これまでの受験の経験

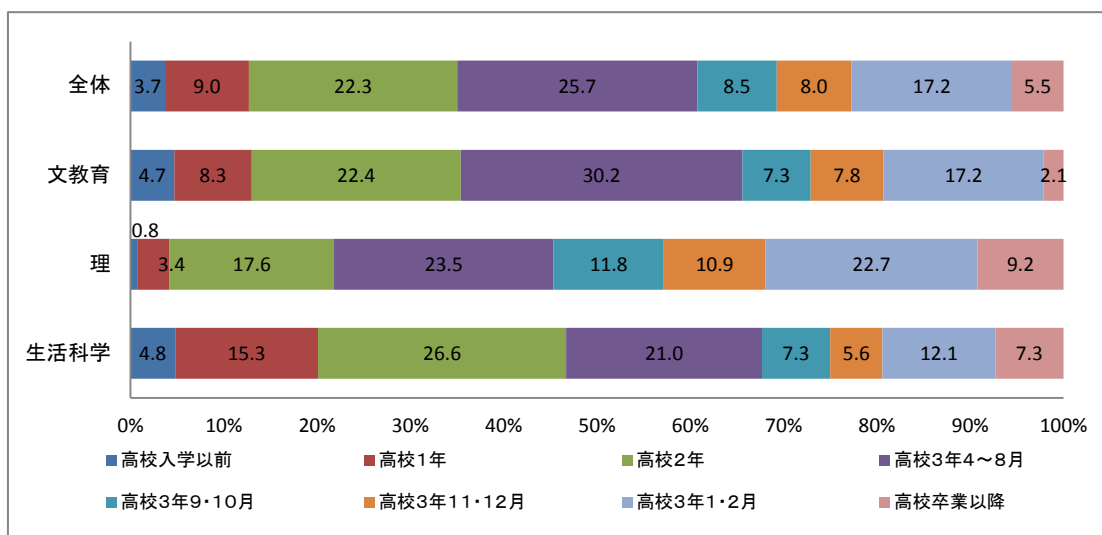


Benesse 教育研究開発センターが 2012 年に実施した「第 2 回 大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター 2013, P150）、中学受験経験率 27.8%であり、本学の新生の受験経験状況とは大きな隔たりがみられる。

### ③本学の受験を決めた時期

本学の受験を決めた時期について、「高校入学以前」「高校1年」「高校2年」「高校卒業以降」に加え、「高校3年」に関しては、その時期を「4～8月」「9・10月」「11・12月」「1・2月」に分けて尋ねた結果が図表 3-4 である。

図表 3-4 本学の受験を決めた時期



全体で見れば、「高校3年4～8月」が25.7%と最も高く、「高校2年」「高校3年1・2月」がそれに続いている。平成24年度新入生（お茶の水女子大学2012, P12 参照）および平成25年度新入生（お茶の水女子大学2013, P10-11 参照）は、「高校2年」が最も高く、「高校3年4～8月」がそれに続く結果となっており、本学の受験を決めた時期が今年度の新入生はやや遅くなっている。

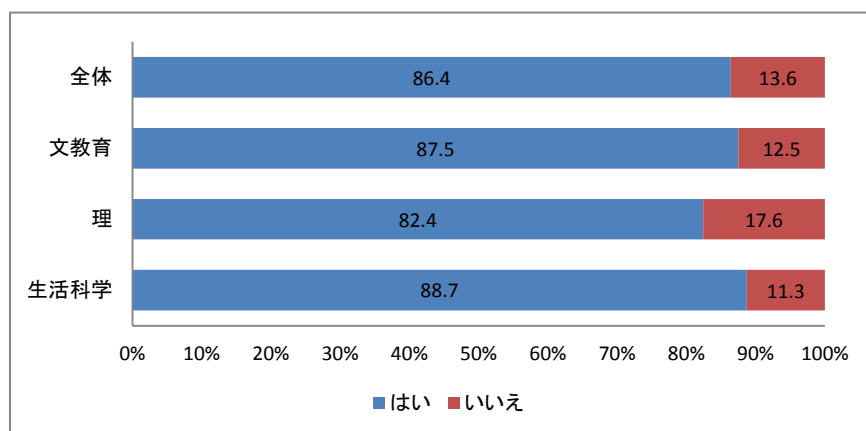
学部別にみると、理学部では「高校3年1・2月」が22.7%に及んでおり、センター試験後に本学の受験を決めた学生も少なからずみられる。一方、生活科学部では高校2年までに本学の受験を決めた学生が約半数を占めている。これらの傾向は、平成24年度新入生（お茶の水女子大学2012, P12 参照）、平成25年度新入生（お茶の水女子大学2013, P10-11 参照）でも同様に示されている。



#### ④本学の志望の度合い

図表 3-5 は、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果である。

図表 3-5 本学の第一志望の割合



全体で見ると 86.4% の新入生が本学を第一志望としており、平成 25 年度新入生と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2013, P11 参照）。

学部別にみると、理学部での第一志望の割合が他の学部比べて 5~6 ポイントほど低い結果となっている。

#### ⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在（調査時期の大学入学前年度 3 月）までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-6 である。

図表 3-6 高校卒業から現在までの間に経験したこと

	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	1.6	0.0	12.6	0.0	80.0	6.9
文教育	0.5	0.0	6.3	0.0	85.9	7.8
理	1.7	0.0	16.0	0.0	78.2	5.0
生活科学	3.2	0.0	19.4	0.0	72.6	7.3

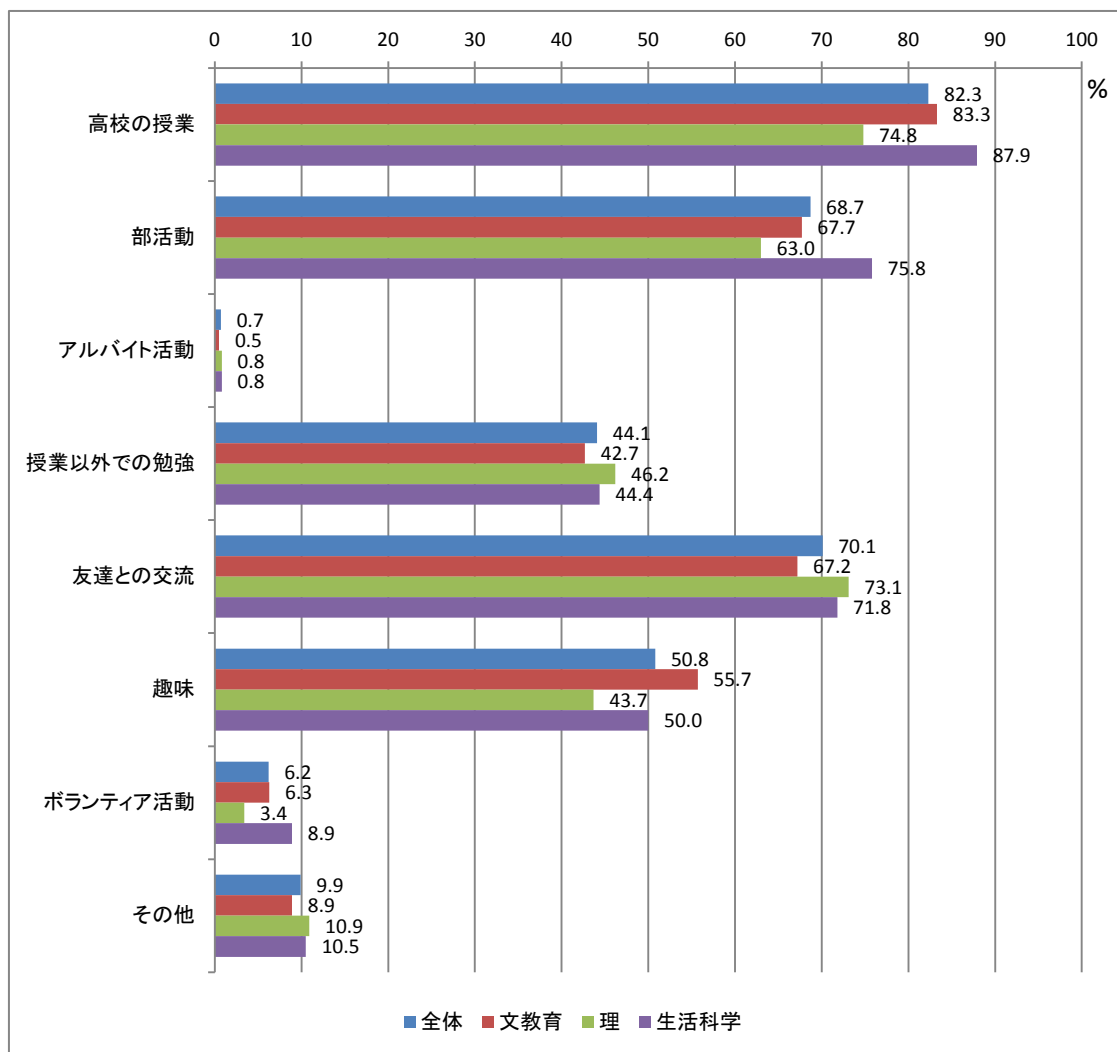
「浪人した」以外はごくわずかであり、「この中にはない」が全体の 80.0% である。この傾向は、平成 25 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P11 参照）。

学部別にみても大きな差異はみられないが、文教育学部と生活科学部では 13 ポイント程度の開きがみられる。

## ⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動

図表 3-7 は、高校時代に熱心に取り組んでいた活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 3-7 高校時代に熱心に取り組んでいた活動



全体で見ると、「高校の授業」が 82.3%と最も高く、「友達との交流」「部活動」が 6 割を超えて続いている。同様の傾向は、平成 25 年度新入生でもみられた（お茶の水女子大学 2013, P12 参照）。

学部別にみると、「高校の授業」「部活動」においては、生活科学部が他の学部にくらべて明らかに高い結果が示されている。

#### (4) 大学入学後の生活の予定

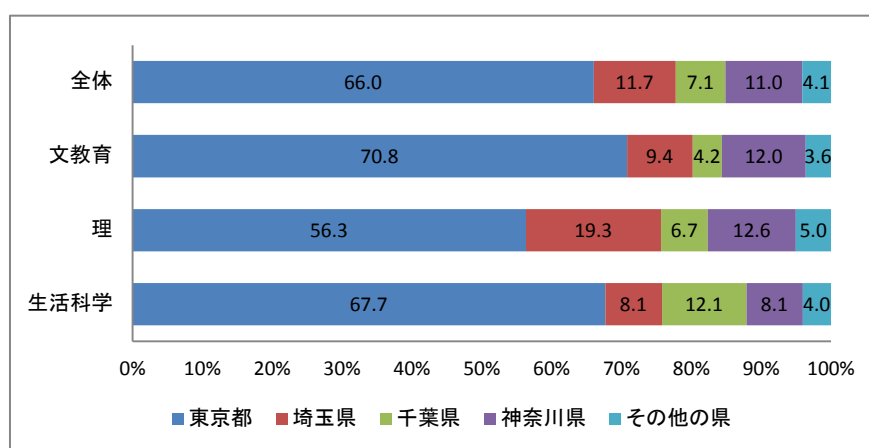
本節では、新入生の大学入学後の生活の予定について、①大学入学後の居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1か月の家賃の予算、④1か月あたりの仕送り予定額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧奨学金・学費免除制度の認知、⑨本学の学生寮に対する認知、⑩大学生活での不安・心配事、⑪本学の学生支援活動への期待から多面的に示していく。

##### ①大学入学後に居住予定の都道府県

図表 4-1 は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。

全体でみると、「東京都」が 66.0%と最も高く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」と続いている。

図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県



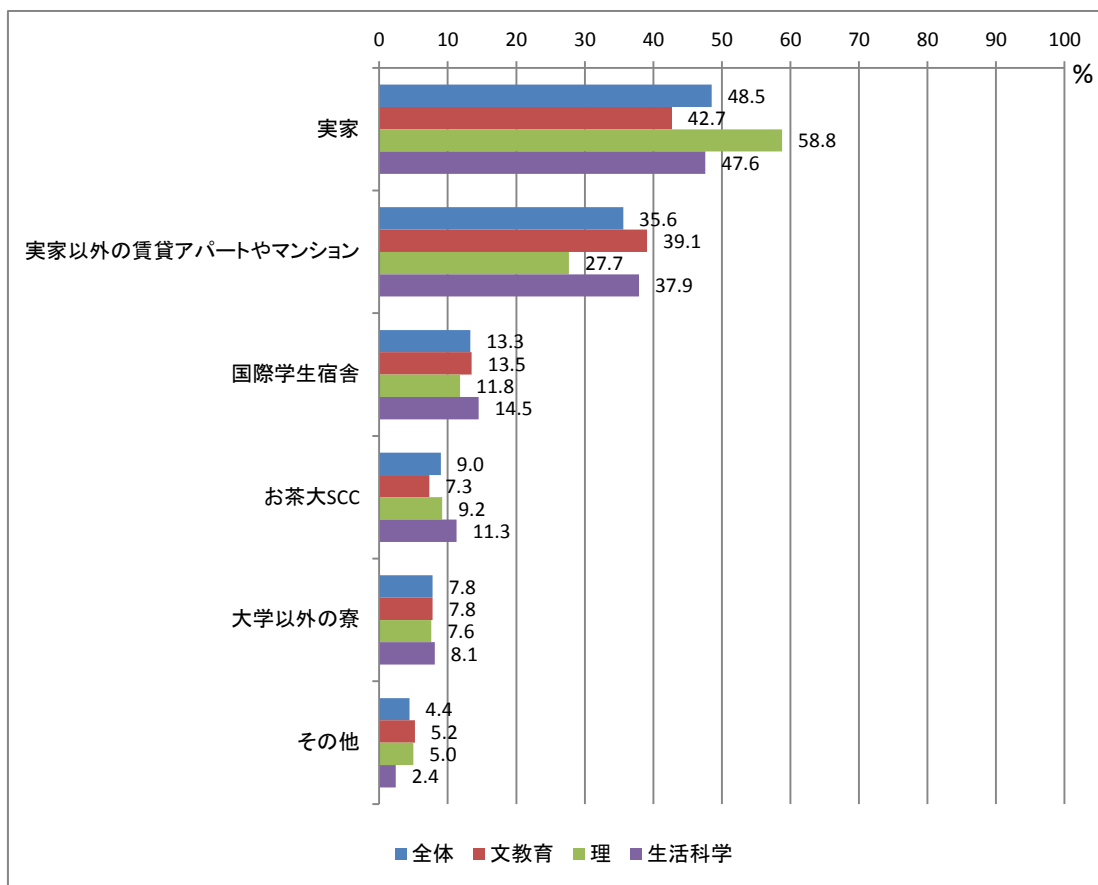
学部別にみると、理学部では他の学部比べて「東京都」の割合が 10 ポイント以上も低く、「埼玉県」の割合が 10 ポイント以上高い。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P13 参照）。

## ②大学入学後の住居の予定

図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」、「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 4-2 大学入学後に予定している住居



全体で見ると、「実家」が約半数を占めており、次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」といった学生寮が続いている。

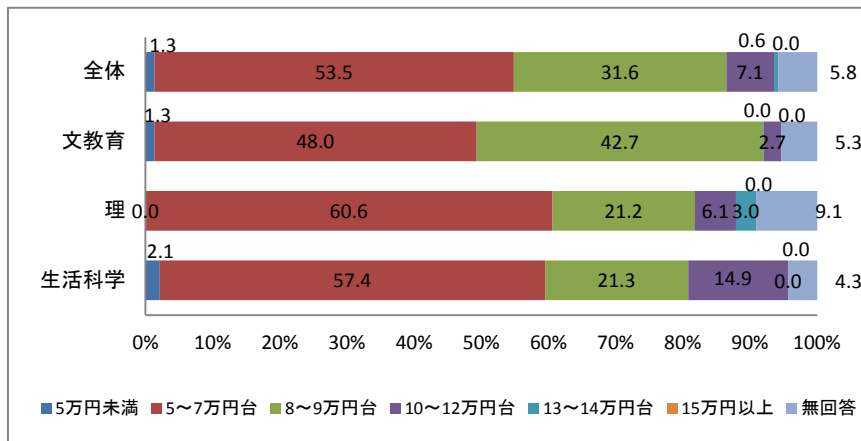
学部別にみると、理学部では「実家」の割合が 58.8%と他学部に比べて高い。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生でも同様であった(お茶の水女子大学 2013, P13-14 参照)。

### ③1 か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

図表 4-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算



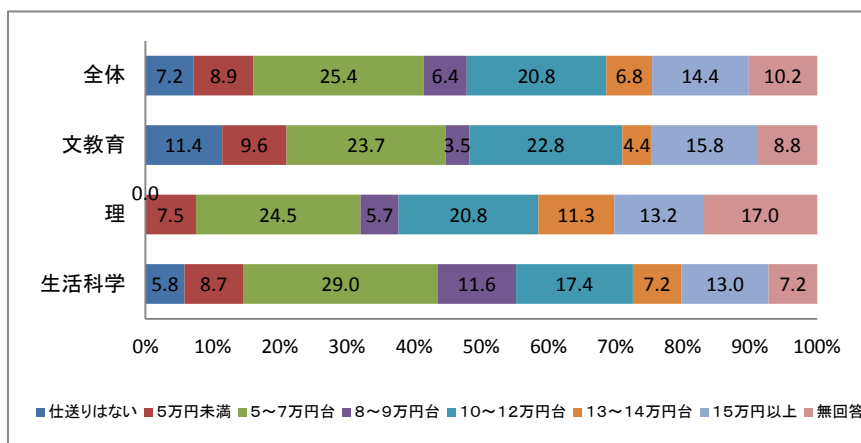
全体で見ると、「5~7万円」が53.5%と最も高く、「8~9万円」がそれに続いており、両者を合わせるとおよそ85%の学生が1か月の家賃として5~9万円を予定していることがわかる。平成25年度新入生でも、ほぼ同様であった（お茶の水女子大学2013, P14参照）。

学部別にみると、文教育学部では他の学部比べて「8~9万円」の割合が20ポイント以上も高い。一方で、生活科学部では「10~12万円」が14.9%であり、他の学部比べて明らかに高い。

### ④1 か月あたりの仕送り予定額

図表 4-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。

図表 4-4 1 か月あたりの仕送り予定額

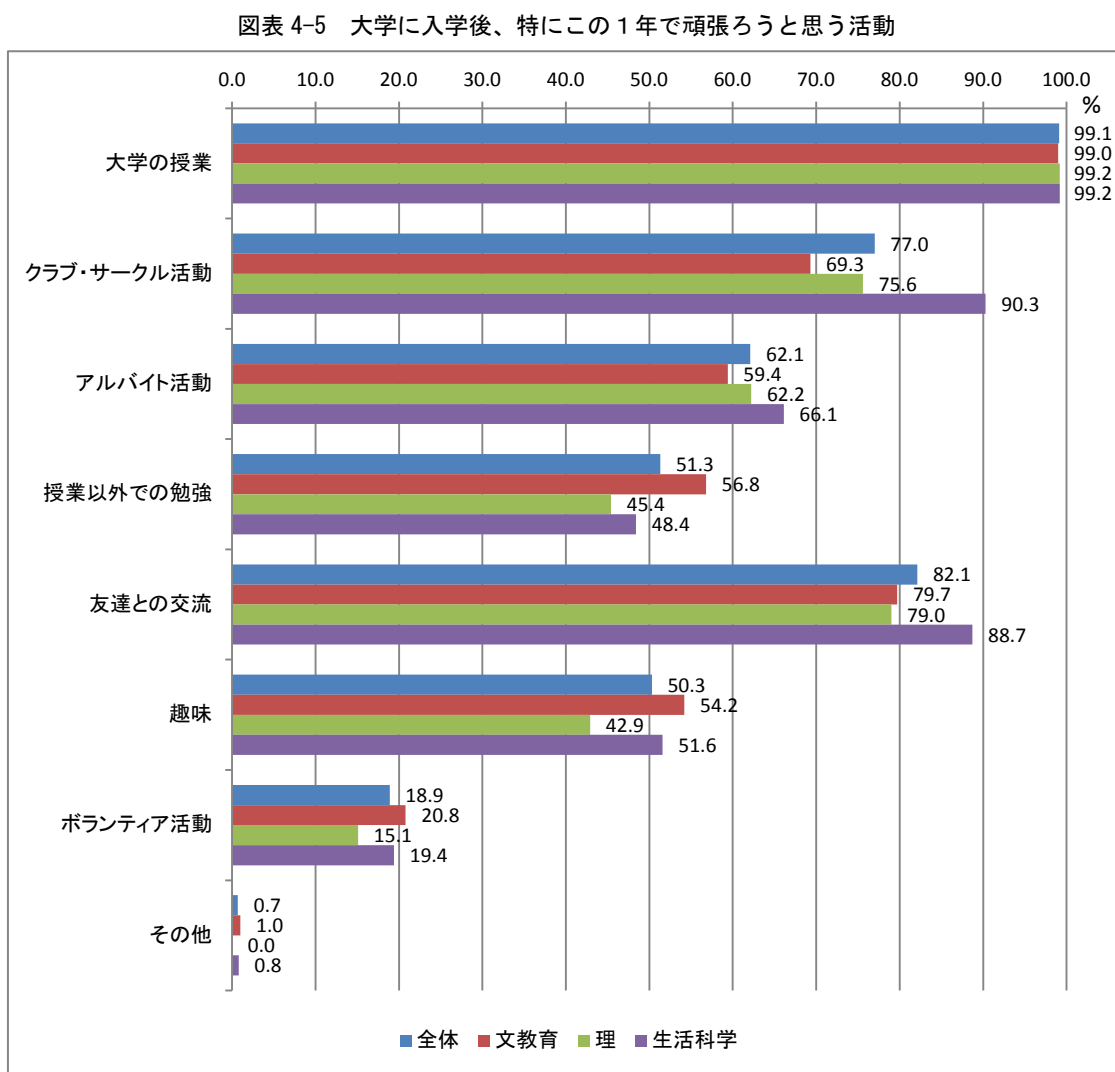


全体で見ると「5～7万円」が25.4%と最も高く、「10～12万円」「15万円以上」がそれに続く結果となっている。その一方で、「5万円未満」が8.9%、「仕送りはない」7.2%を占めている。

なお「第48回 学生生活実態調査の概要報告」によれば（全国大学生活協同組合連合会2013）、下宿生のうち、仕送り「10万円以上」は30.3%であり、この10年でほぼ半減している。その一方で、仕送り「0」の割合は10.0%と4年連続1割を超えており、5万円未満層も26.8%と増加傾向にある。

### ⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表4-5は、大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。



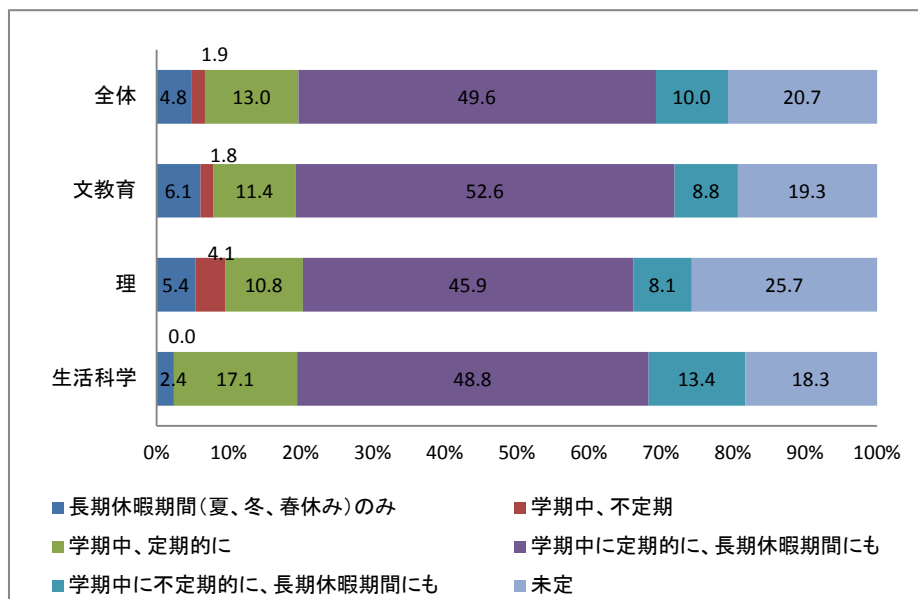
「大学の授業」が最も高く、全体の99.1%に及んでおり、学部による差異もみられない。それに続いて、「友達との交流」82.1%、「クラブ・サークル活動」が77.0%と全体の7割を超えている。これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学2013, P15-16参照）。「友達との交流」「クラブ・サークル活動」においては、生活科学部ではおよそ9割に及んでおり、他の学部に比べても明らかに高い。

「アルバイト活動」は全体の 62.1%であり、「友達との交流」「クラブ・サークル活動」に続いているが、その理由についても今後は目を向けていく必要があるだろう。

### ⑥アルバイト活動の予定

図表 4-6 は、大学入学後のアルバイト活動をする予定の時期や頻度について、アルバイト活動をする予定のある者に対して尋ねた結果である。

図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

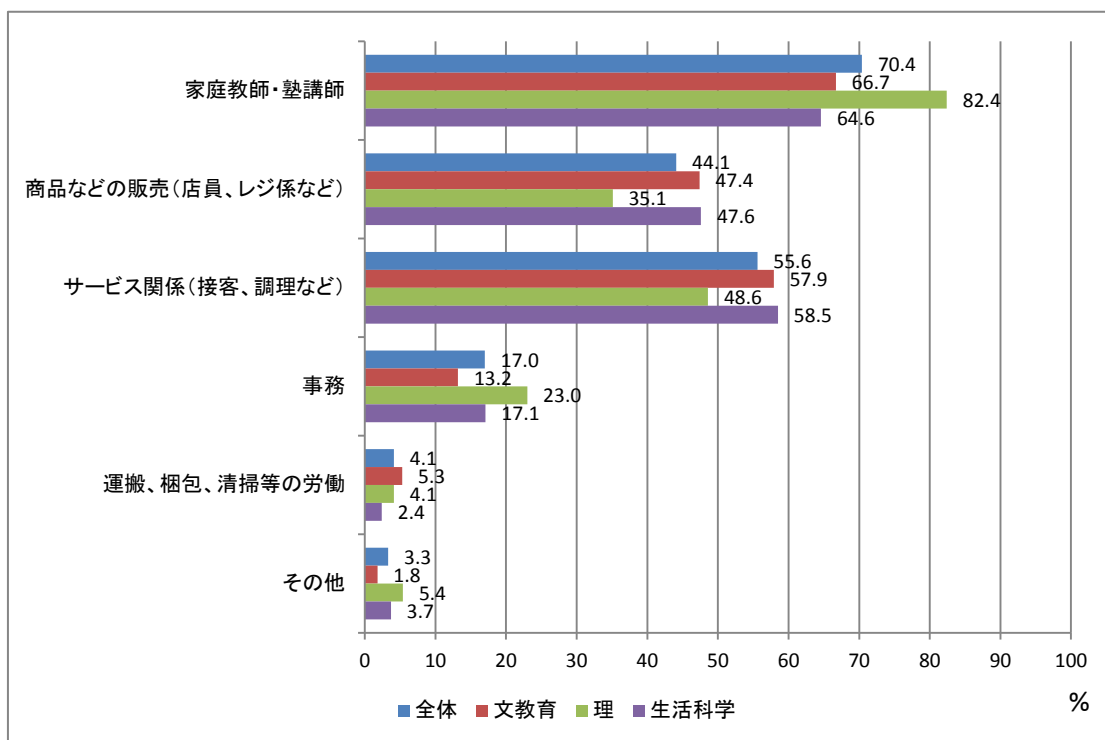


全体で見ると、「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」が最も高く 49.6%を占めており、平成 25 年度新入生に比べて 5 ポイント高くなっている（お茶の水女子大学 2013, P16 参照）。

「未定」が全体の 20.7%を占めているものの、「長期休暇期間のみ」は全体の 4.8%に過ぎず、学期中にアルバイト活動を予定している学生の多さがうかがえる。

さらに、希望するアルバイト活動について、アルバイト活動をする予定のある者に対して、複数回答可として尋ねた結果が図表 4-7 である。

図表 4-7 希望するアルバイト活動



全体で見ると、「家庭教師・塾講師」が最も高く7割を超えており、「サービス関係」「商品などの販売」がそれに続いている。

学部別にみると、理学部では「家庭教師・塾講師」が82.4%であり、他の活動より明らかに高い。

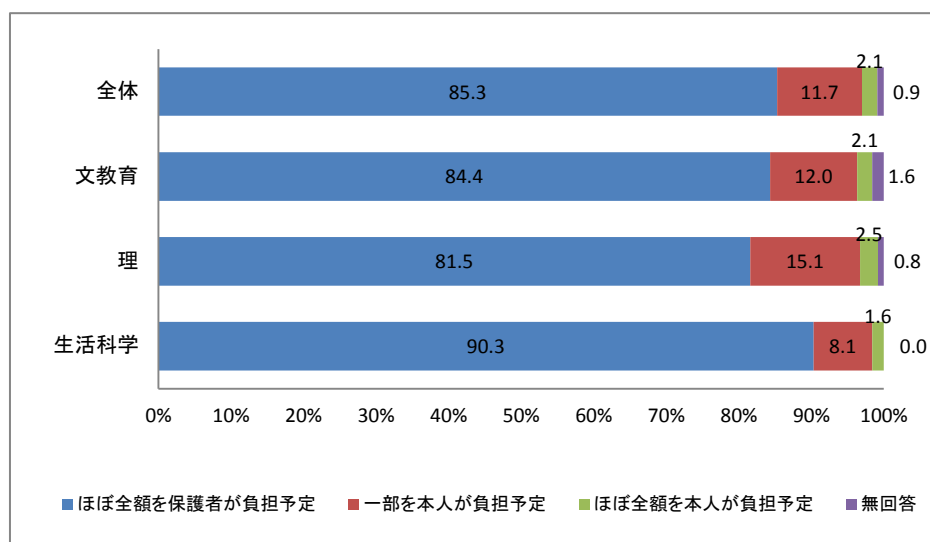
これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様にみられた（お茶の水女子大学2013, P17 参照）。



## ⑦授業料の負担予定

図表 4-8 は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」の中から尋ねた結果である。

図表 4-8 授業料の負担予定



「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 85.3%であるが、いずれの学部でも 8 割を超えており、生活科学部では 9 割を超えている。その一方で、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は極めて少なく、いずれの学部でも 2%程度であった。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P17 参照）。

## ⑧奨学金・学費免除制度の認知

図表 4-9 は、奨学金・学費免除制度の認知について、本学独自の制度も含め、複数回答可として尋ねた結果である。

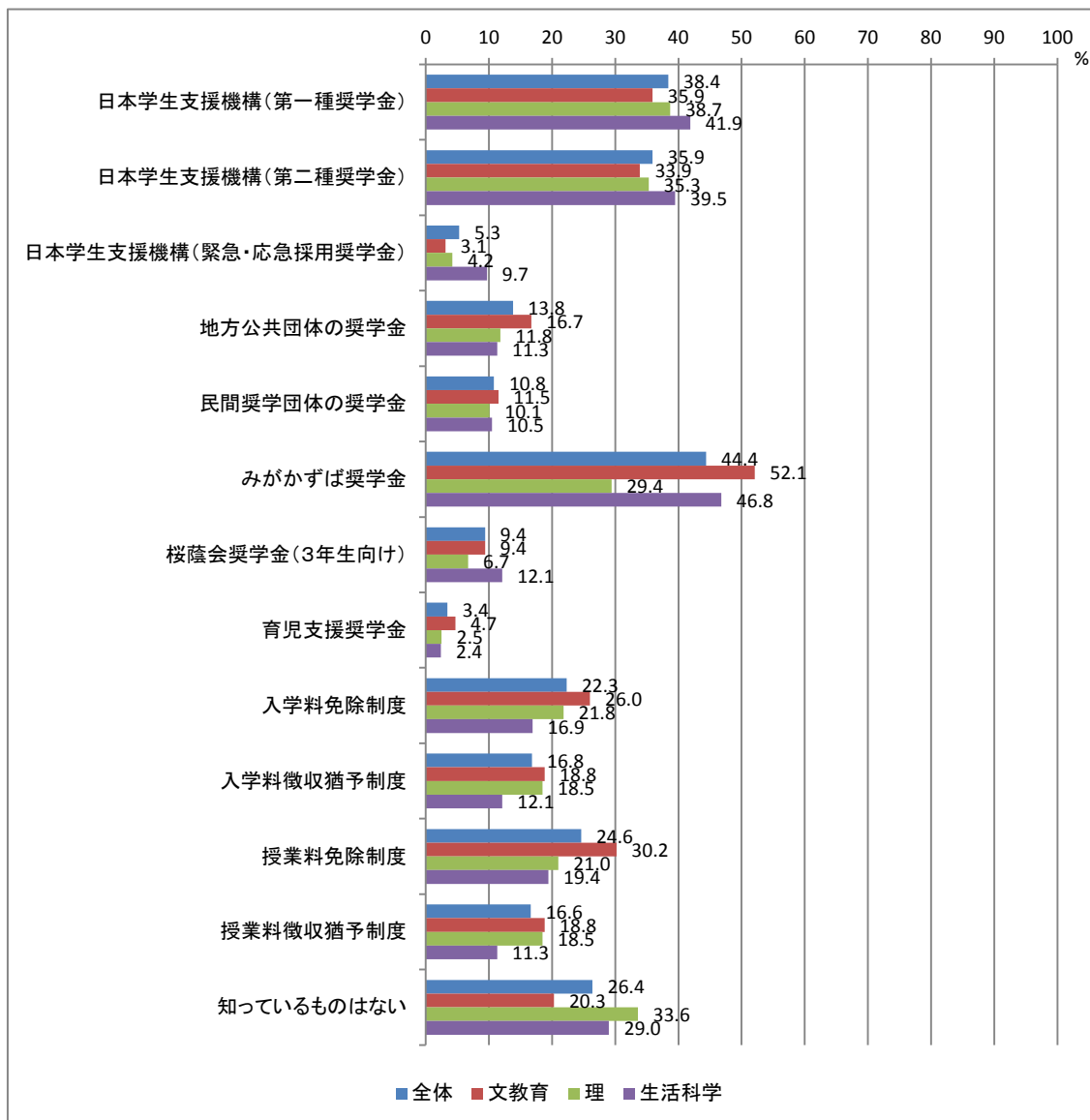
「知っているものはない」は全体の 26.4%であった。生活科学部では 29.0%、理学部では 33.6%とおおよそ 3 割を占めている。

奨学金制度の認知については、日本学生支援機構による奨学金は、第一種・第二種ともに高く、全体の 4 割以上の認知率であった。学部別にみても、第一種・第二種ともに、いずれの学部でも 3 割を超えている。これらの傾向は、平成 25 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P18 参照）。

特筆すべきは、本学独自の奨学金として、平成 23 年度よりスタートした予約型奨学金制度である「みがかずば奨学金」である。日本学生支援機構による奨学金以上に認知率が高く、全体で見れば 44.4%、文教育学部では 52.1%、生活科学部でも 46.8%と、おおよそ半数が認知している。

入学科や授業料の学費免除制度は全体の 2 割を超える認知率、徴収猶予制度は 16%程度の認知率であった。

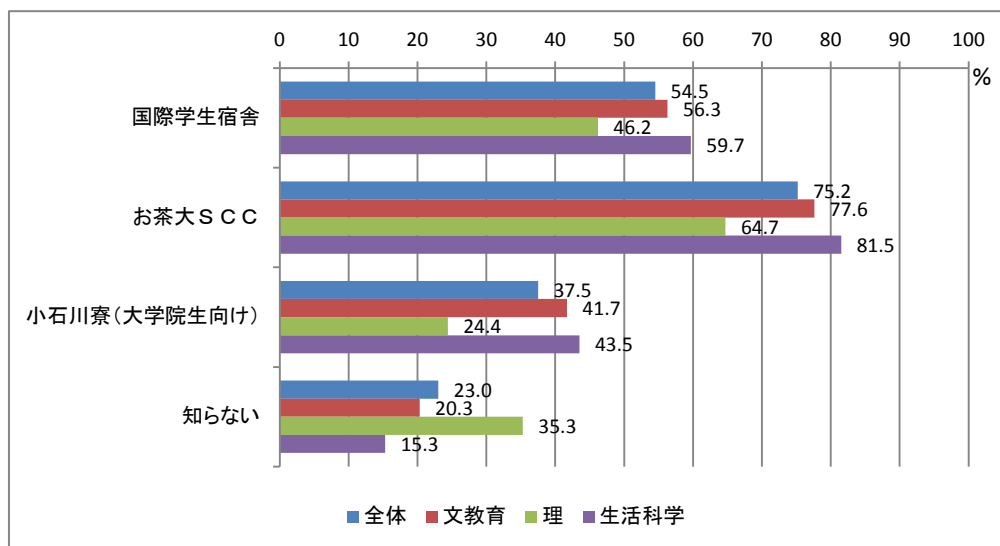
図表 4-9 奨学金・学費免除制度の認知



### ⑨本学の学生寮に対する認知

本学には、国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（1・2 年生対象）、小石川寮（院生対象）がある。図表 4-10 は、これらの本学の学生寮に対する認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 4-10 本学の学生寮に対する認知



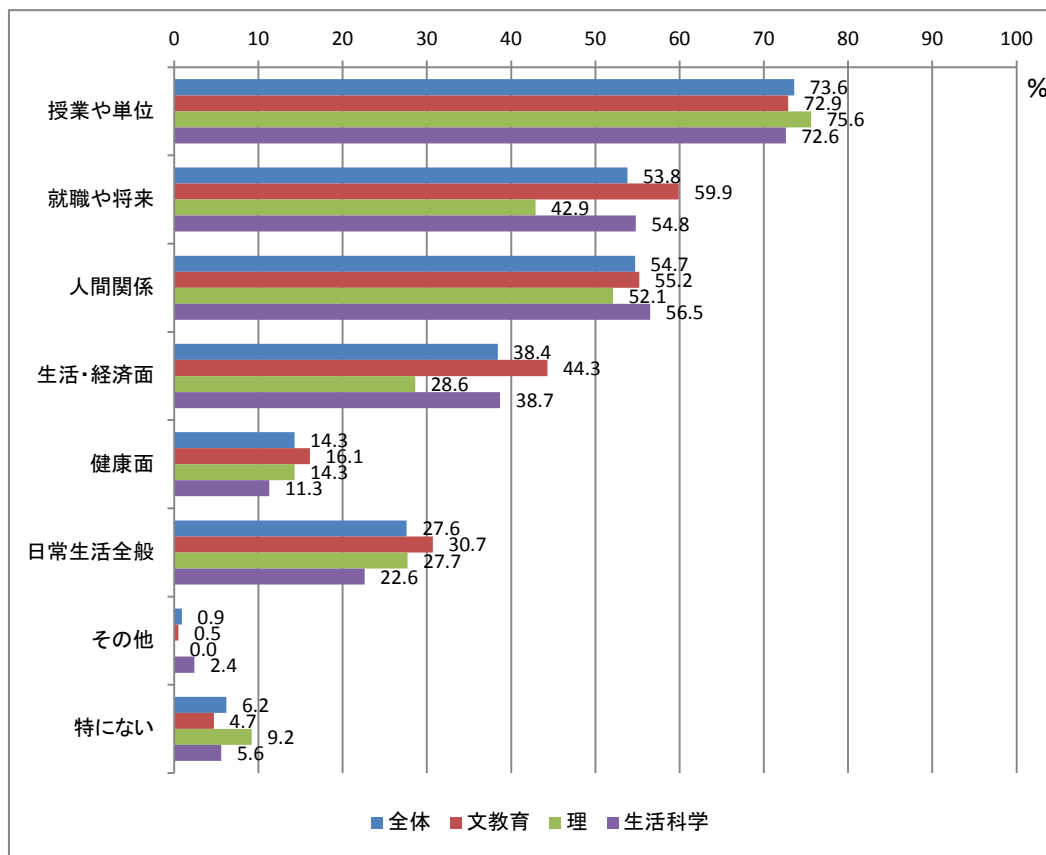
全体で見ると、「お茶大 SCC」が 75.2%、「国際学生宿舎」が 54.5%であった。その一方で、「知らない」は全体の 23.0%、理学部では 35.3%に及んでいる。これらの傾向は、平成 25 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P18-19 参照）。

理学部での認知率の低さはいずれの寮に対しても明らかだが、理学部では実家から通学予定の新入生が高く（P13-14 参照）、学生寮自体に対する関心が低いと思われる。

## ⑩大学生活での不安・心配事

図表 4-11 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 4-11 大生活が始まって心配なこと



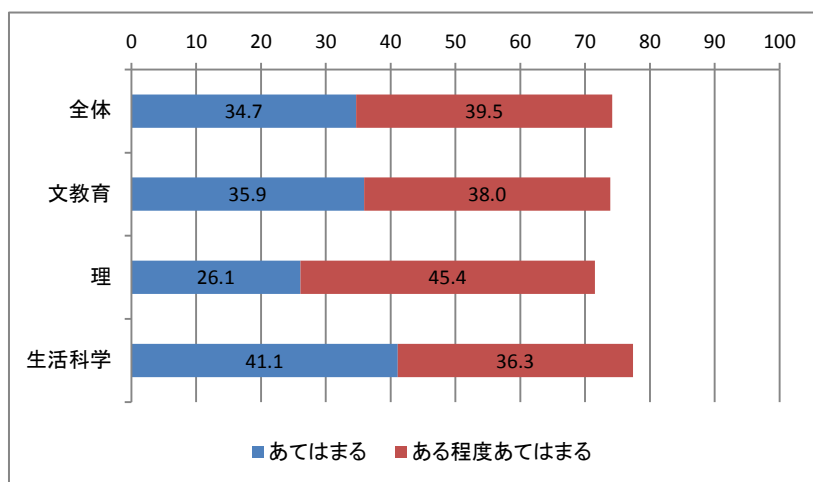
「特にない」は全体の6.2%であり、平成25年度新入生と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2013, P19-20 参照）。学部別にみると、理学部では9.2%と高い。

不安や心配ごとの中身に目を向けると、「授業や単位」が全体の73.6%と最も多く、「人間関係」「就職や将来」がそれに続いている。平成24年度新入生（お茶の水女子大学2012, P26-27 参照）及び平成25年度新入生（お茶の水女子大学2013, P19-20 参照）では、「授業や単位」に「就職や将来」が続いており、今年度新入生との違いがみられた。

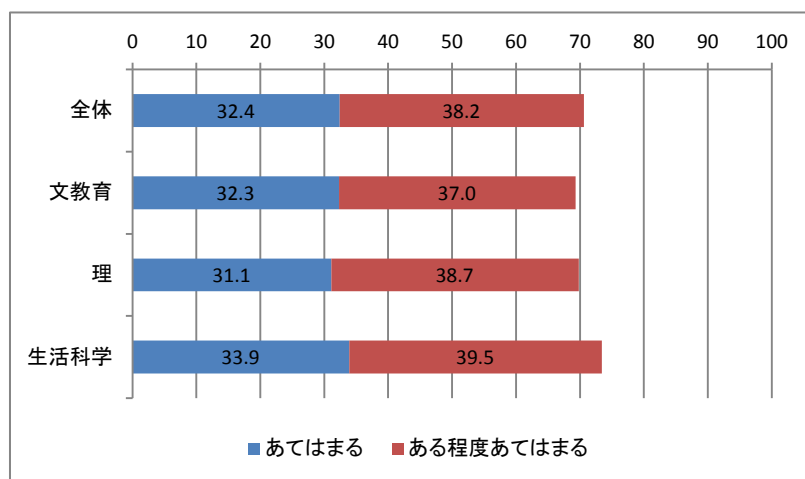
また、「授業や単位」「人間関係」では、学部により大きな差異は示されていないが、「就職や将来」に関しては理学部が10ポイント以上他の学部よりも低い結果となっている。

さらに、大学入学後の不安や心配事に関する8項目を設定し、それぞれについて4件法で尋ねたところ、全体での該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）が70%を超えている項目は以下の4項目であった（図表4-12から図表4-15）。平成25年度新入生では、「友達ができるか」も該当したが（お茶の水女子大学2013, P20 参照）、今年度新入生では69.0%であった。

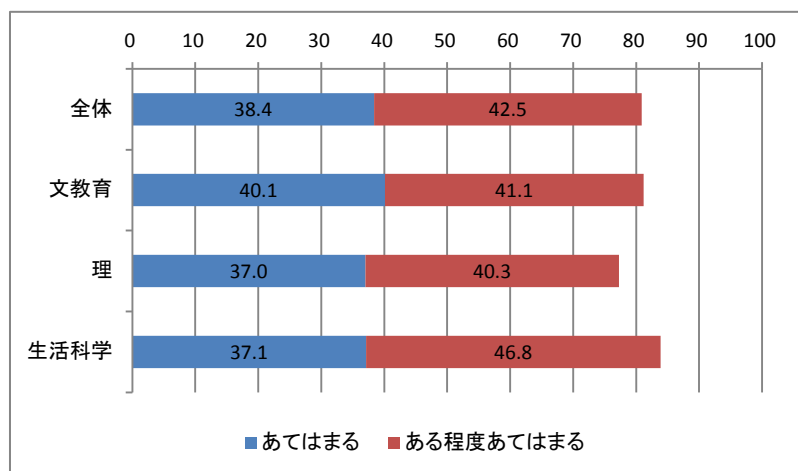
図表 4-12 充実したキャンパスライフを送れるか



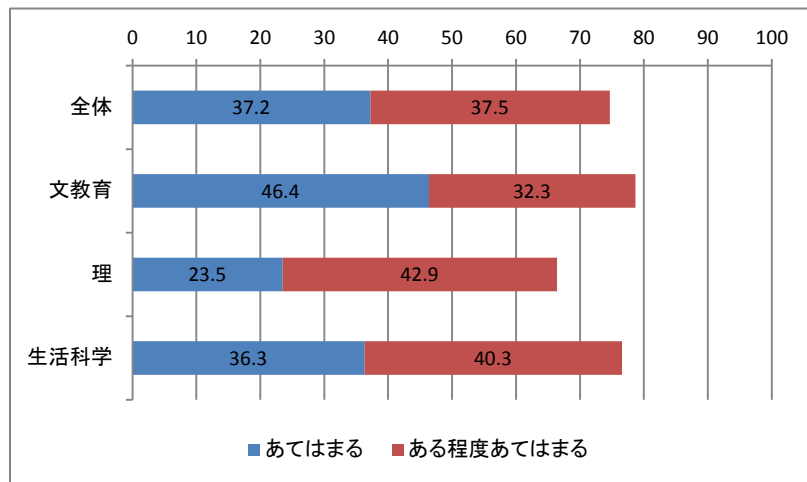
図表 4-13 大学になじめるか



図表 4-14 授業についていけるか



図表 4-15 卒業後ちゃんと就職できるか

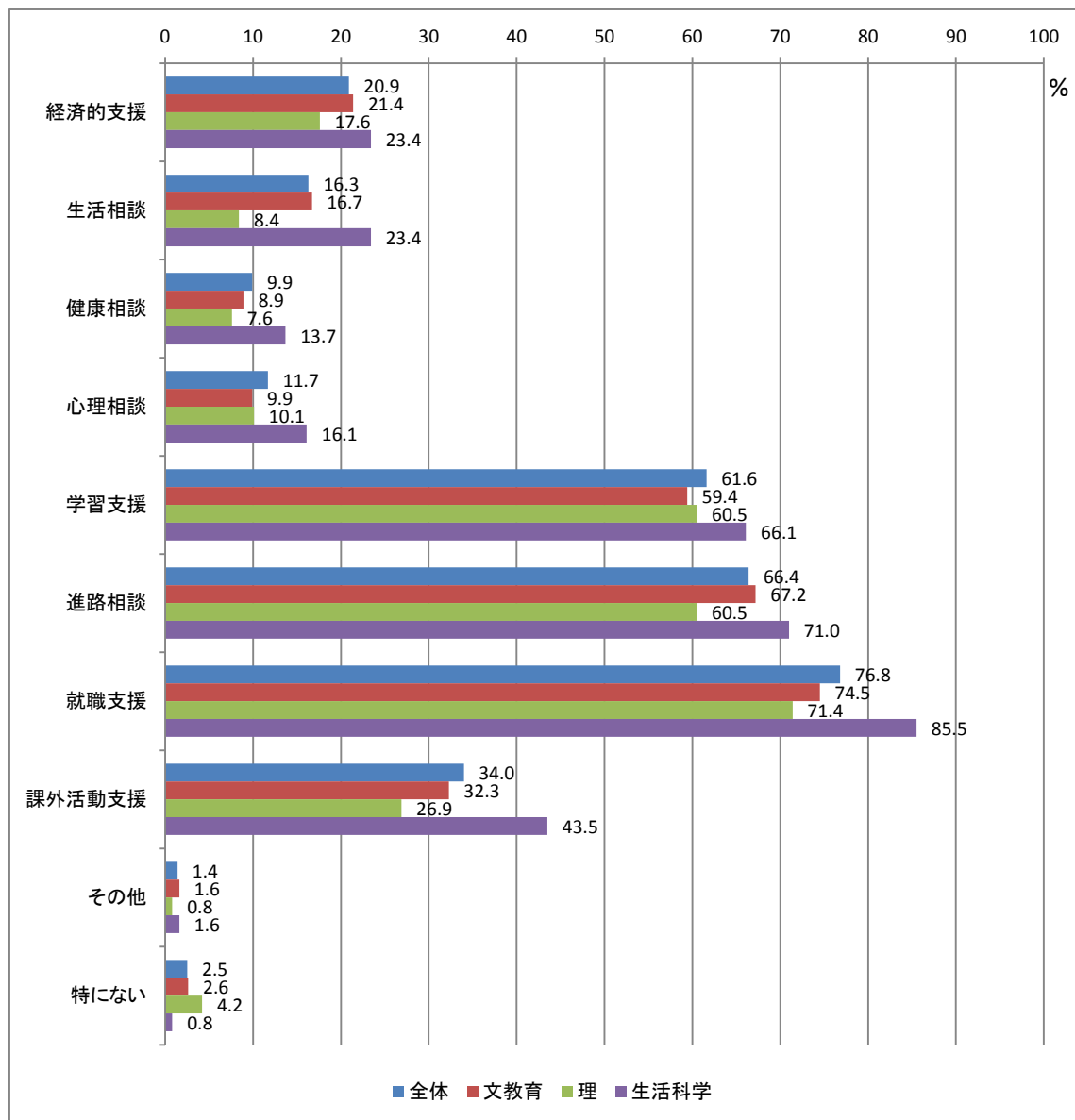


全体で見ると、「授業についていけるか」が80.9%と最も高く、「卒業後ちゃんと就職できるか」「充実したキャンパスライフを送れるか」「大学になじめるか」がそれに続く結果となっている。平成25年度新入生は、「卒業後ちゃんと就職できるか」が最も高く、「授業についていけるか」「充実したキャンパスライフを送れるか」「友達ができるか」が続いており（お茶の水女子大学2013, P20 参照）、今年度新入生との違いもみられた。

### ⑪本学の学生支援活動への期待

図表 4-16 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 4-16 本学の学生支援活動への期待



全体で見ると、「就職支援」が 76.8%と最も高く、「進路相談」「学習支援」が 6 割を超えてそれに続いている。

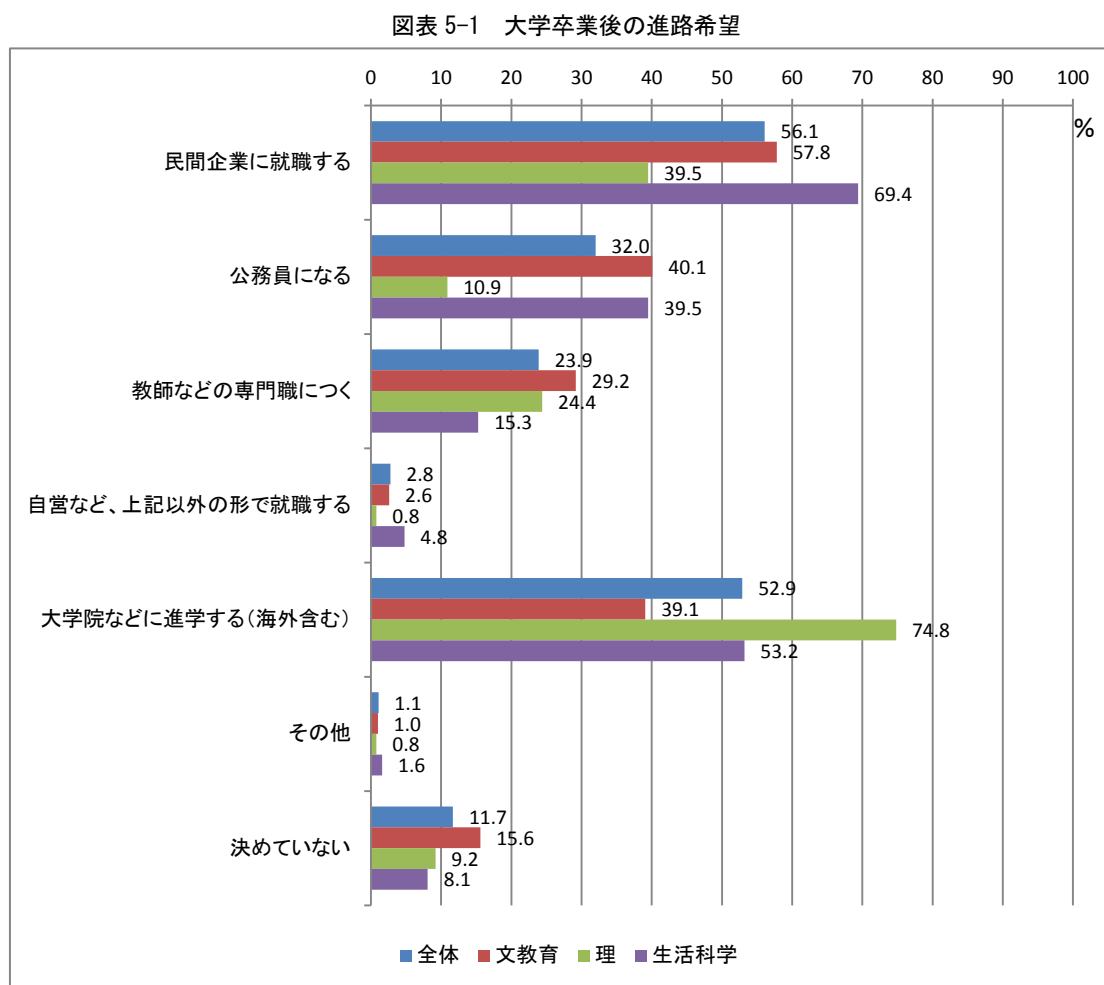
これらの支援への期待は、平成 25 年度新入生では文教育学部での高さがいずれでも目立っていたが（お茶の水女子大学 2013, P21 参照）、今年度新入生では生活科学部での高さがいずれにおいても目立つ結果となった。

## (5) 将来の進路

本節では、新入生の将来の進路について、①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与から示していく。

### ①大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、複数回答可として尋ねたものである。



全体でみると、「民間企業に就職する」が最も高く 56.1%、「大学院などに進学する(海外含む)」がそれに続いて 52.9%であった。ただし「大学院などに進学する(海外含む)」は学部による差異も大きく、理学部では7割を超える一方で、文教育学部では4割程度であった。これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様に示されている(お茶の水女子大学2013, P22 参照)。

「公務員になる」が全体の32.0%でこれらの進路希望に続くが、学部により差異も大きく、文教育学部や生活科学部ではおよそ4割を占める一方で、理学部では1割程度にとどまっている。

また、「決めていない」は全体の11.7%に過ぎないことから、本学の新入生は、大学入学時点で、卒業後の進路について、ある程度の希望を持っている学生が多数であることがわかる。平成25年度新入生も同様の傾向がみられた(お茶の水女子大学2013, P22 参照)。

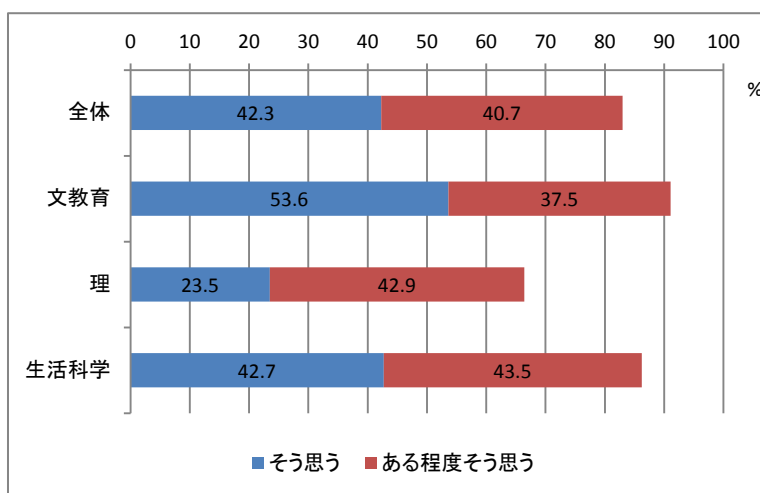


## ②大学卒業後のキャリアについての考え

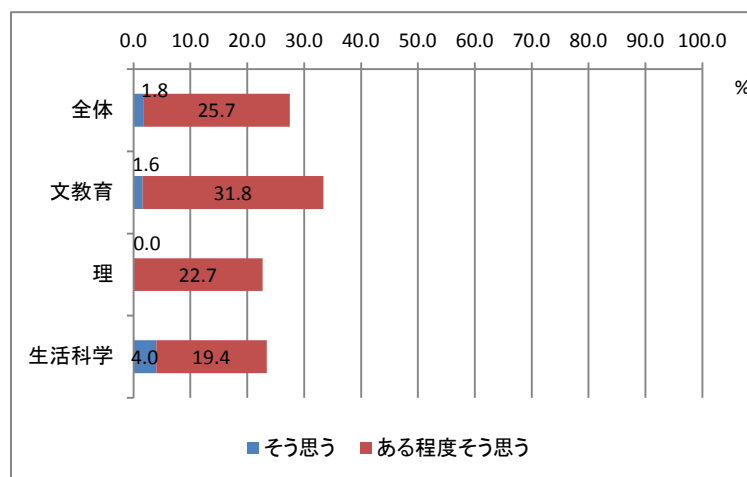
全国大学生調査コンソーシアム/東京大学大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ね、その該当率（「そう思う」＋「ある程度そう思う」）を示した結果が、図表5-2から図表5-10である。

まず図表5-2から図表5-5は、「卒業後の就職」について尋ねた4項目についての結果である。

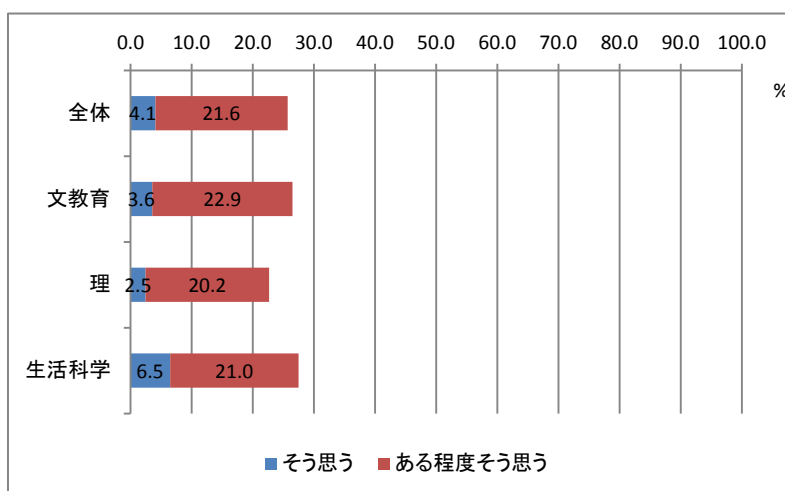
図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



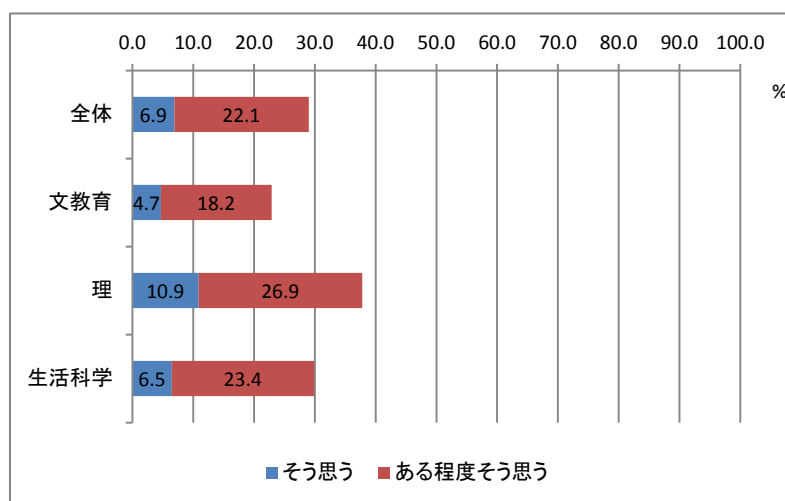
図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない



図表 5-4 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない



図表 5-5 卒業後すぐには就職しなくてもよい

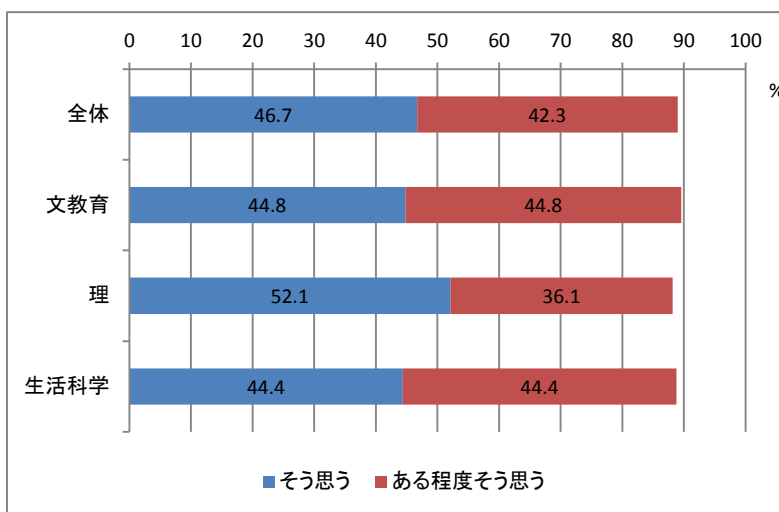


全体で見れば、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」の該当率が83.0%の一方で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」は27.5%、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は29.0%であり、平成25年度新入生同様、大学卒業後すぐの正規雇用志向がうかがえる（お茶の水女子大学2013, P22-23 参照）。

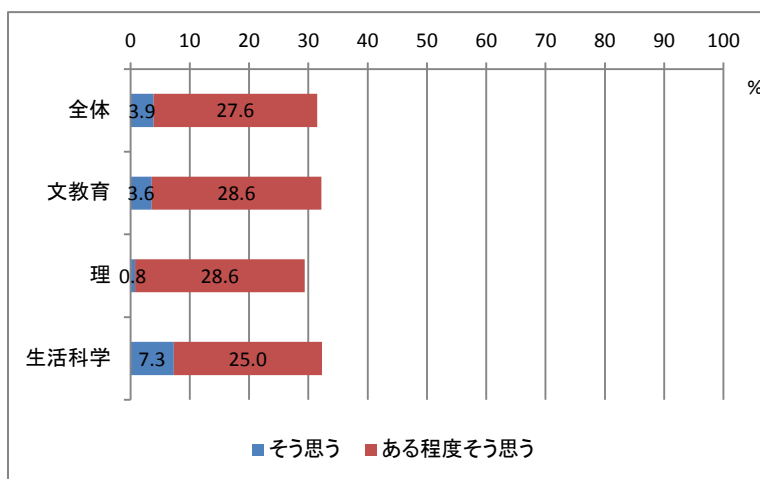
学部別にみると、平成25年度新入生同様、他の学部に比べて理学部では「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」が低い（お茶の水女子大学2013, P22-23 参照）。

続いて、図表 5-6 から図表 5-8 は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた 3 項目についての結果である。

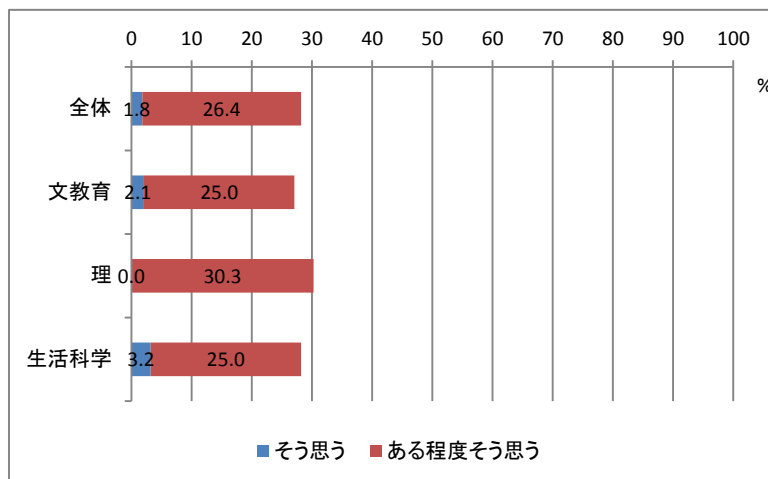
図表 5-6 最初の就職先にできるだけ長く勤める



図表 5-7 何年かして転職や独立をする



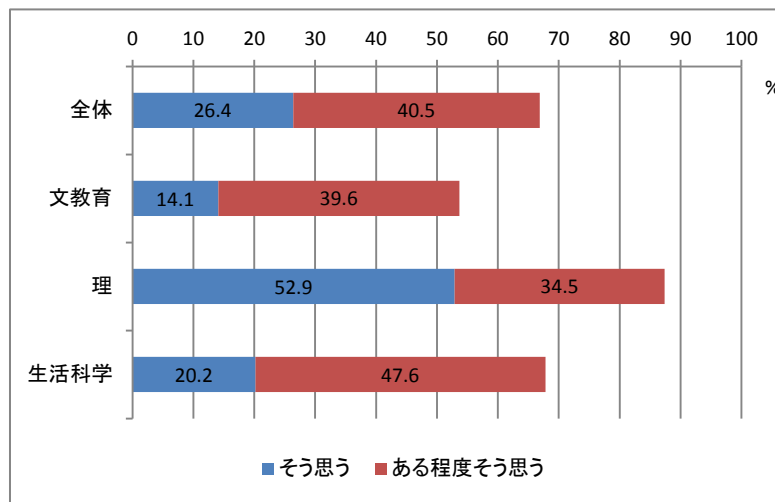
図表 5-8 結婚・出産したら仕事をやめる



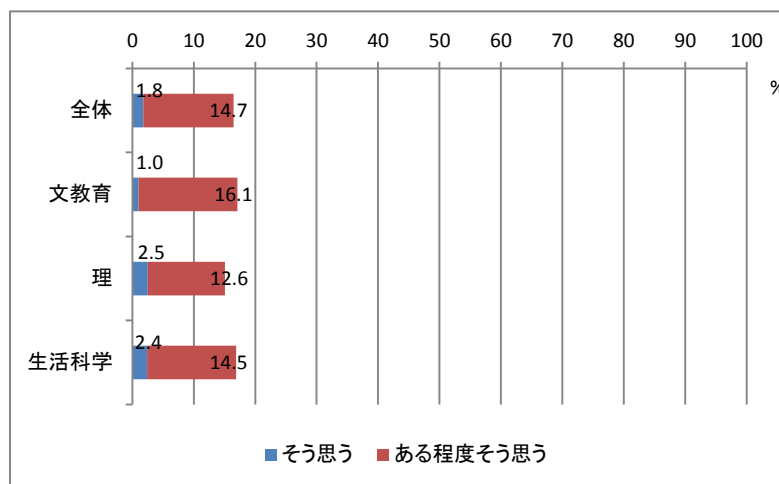
いずれの項目も学部による大きな差異はみられず、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」は全体のおよそ9割に及んでいる。その一方で、「何年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は2～3割程度にとどまっており、「そう思う」との回答は極めて少数であった。これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学2013, P23-24 参照）。

最後に、図表5-9および図表5-10は、「卒業後・就職後の大学院進学」について尋ねた2項目についての結果である。

図表5-9 すぐに大学院などに進学する



図表5-10 就職してから大学院への進学を考える

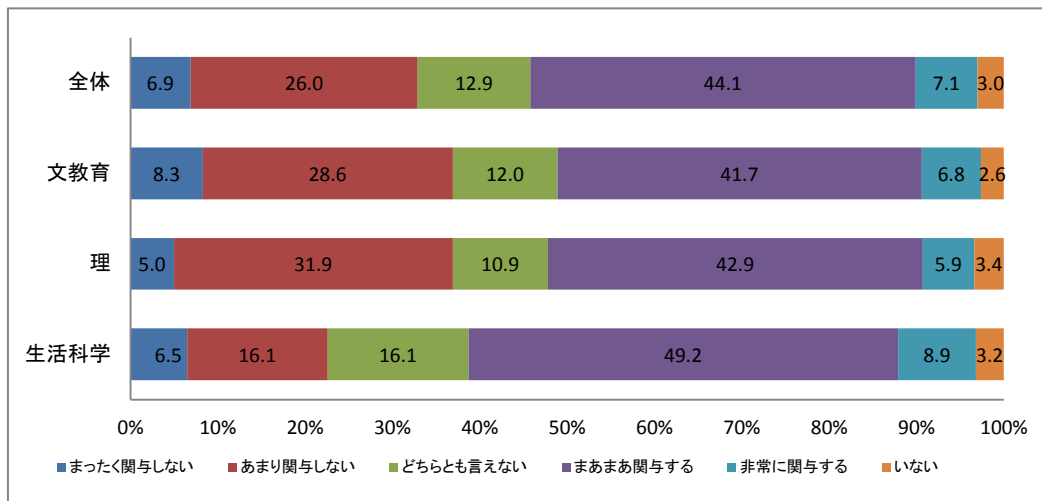


「すぐに大学院などに進学する」は、全体の66.9%であるが、理学部ではおよそ9割に及んでおり、他学部比べて明らかに高い。これに対し「就職してから大学院への進学を考える」は、学部による大きな差異はみられなかった。これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学2013, P24 参照）。

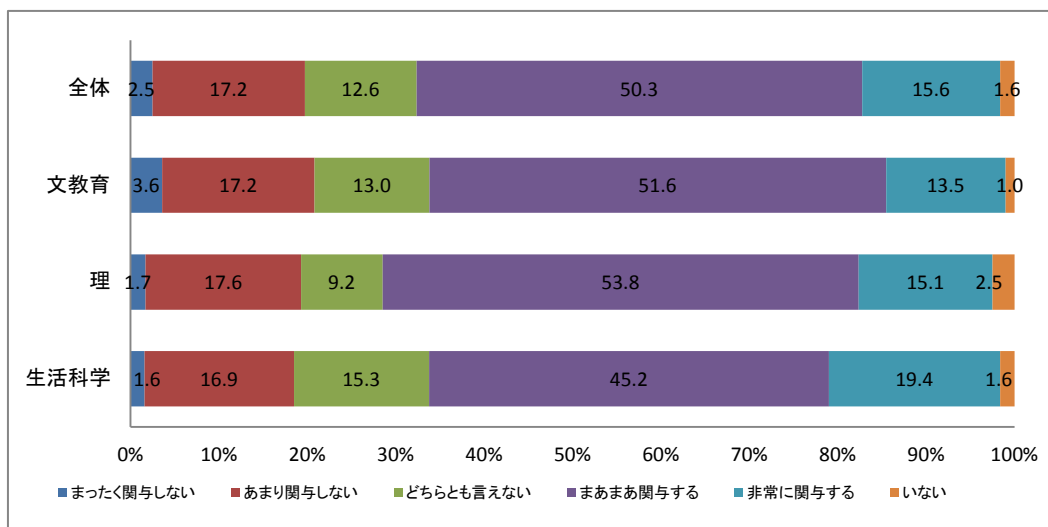
### ③就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関して、図表 5-11 は父親の関与を、図表 5-12 母親の関与を 5 件法で尋ねた結果である。

図表 5-11 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-12 就職や将来のことに関する母親の関与



本学の新生は、就職や将来のことに関して、全体の半数以上が父親の関与があり（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」と回答）、全体のおよそ 2/3 が母親の関与がある。これらの傾向は、平成 25 年度新生でも同様に示されており（お茶の水女子大学 2013, P25 参照）、大学卒業後の進路に対する支援を行う際には、保護者の存在も視野に入れ、保護者とともに支援にあたるのが有益な支援につながると思われる。

学部別にみると、平成 25 年度新生では、理学部で父親・母親ともに関与の程度が目立っていたが（お茶の水女子大学 2013, P25 参照）、今年度新生では、生活科学部で父親の関与の程度が高いことが示されている。